

若手経営者塾通信「NeXT」

No.1

城戸メノウ乳鉢製作所

城戸 弘明

第1期生



「100%しか作れない」「唯一」の国産品

城戸メノウ乳鉢製作所は、大学や企業が研究をする際に使用する「メノウ製乳鉢」を主に製作している。一九六〇年の創業から培った加工・研磨技術を軸に、多くの同業者が撤退し、遂には国内で唯一のメーカーとなった。研究の現場では、我々一般人では想像もつかない程の高い品質が要求される。そんな研究の現場から、長年培った加工・研磨技術に裏付けられた品質が、高い評価を獲得している。



様々な素材を研磨・加工する高い技術力

手前:サファイア 右:石英 奥:メノウ

ルーツ

鶴岡工業高等専門学校を卒業後、日本屈指の複合機メーカーに就職した。そこでは複合機のトナーカードリッジ製造工程の設計などを担当していた。社会人生活は充実していたが、結婚を機に故郷に帰ってくることを決意。家業であった、城戸メノウ乳鉢製造所の業務に従事することになった。

現在は現場作業から品質管理、経営まで、会社の業務全般に携わっている。

人生のリズムを変えたかった

若手経営者塾に入塾したきっかけは、「一定のリズムで流れる人生を変えたかったから」。「城戸さんはこう話す。また、「同世代の経営者仲間が欲しかったんです。」とも話してくれた。同世代の経営者はほとんどが漁師という環境の中で、とにかく繋がりを欲していた。「そんな中、妻が若手経営者塾のニュースを見つけて、入塾を促してくれました。」やはり、優れた経営者には内助の功が欠かせない。

若手経営者塾で得たもの

「普通に生きていたら、こんなに沢山の有名な人の話を聞いて、政策公庫の支店長や、金融機関の役員と気軽に話せる機会なんてなかなかないと思います。」城戸さんはこう話してくれた。にもかかわらず、年間三万五千円という価格設定も非常に魅力的だったとのこと。「二期のメンバーはすごく仲がいいんです。」卒業してからも何度が集まり、近況報告や様々な会話を楽しんでいるとのこと。入塾する際に欲していた「繋がりは得られたようだ。」

未来へ向けたチャレンジ

城戸メノウ乳鉢製作所は、現在の工場所在地が高速道路建設の対象地となったことから、鶴岡市内への移転を検討している。「これからチャレンジしたいことは、工場移転による生産性の向上です。」そう話して城戸さんの目は輝いていた。その為に、城戸さんはものづくり補助金の申請に取り組んでいる。決してハードルの低いチャレンジではないが、是非採択を勝ち取って未来へ向けたチャレンジを成功させてもらいたい。

城戸メノウ乳鉢製作所
住所/鶴岡市鼠ヶ関字中道57-3
電話/0235-44-2977
Mail/info@kido-japan.com



つなぐ力で100年幸せな街づくり

鶴岡信用金庫

<https://www.tsuruoka-sk.jp/>